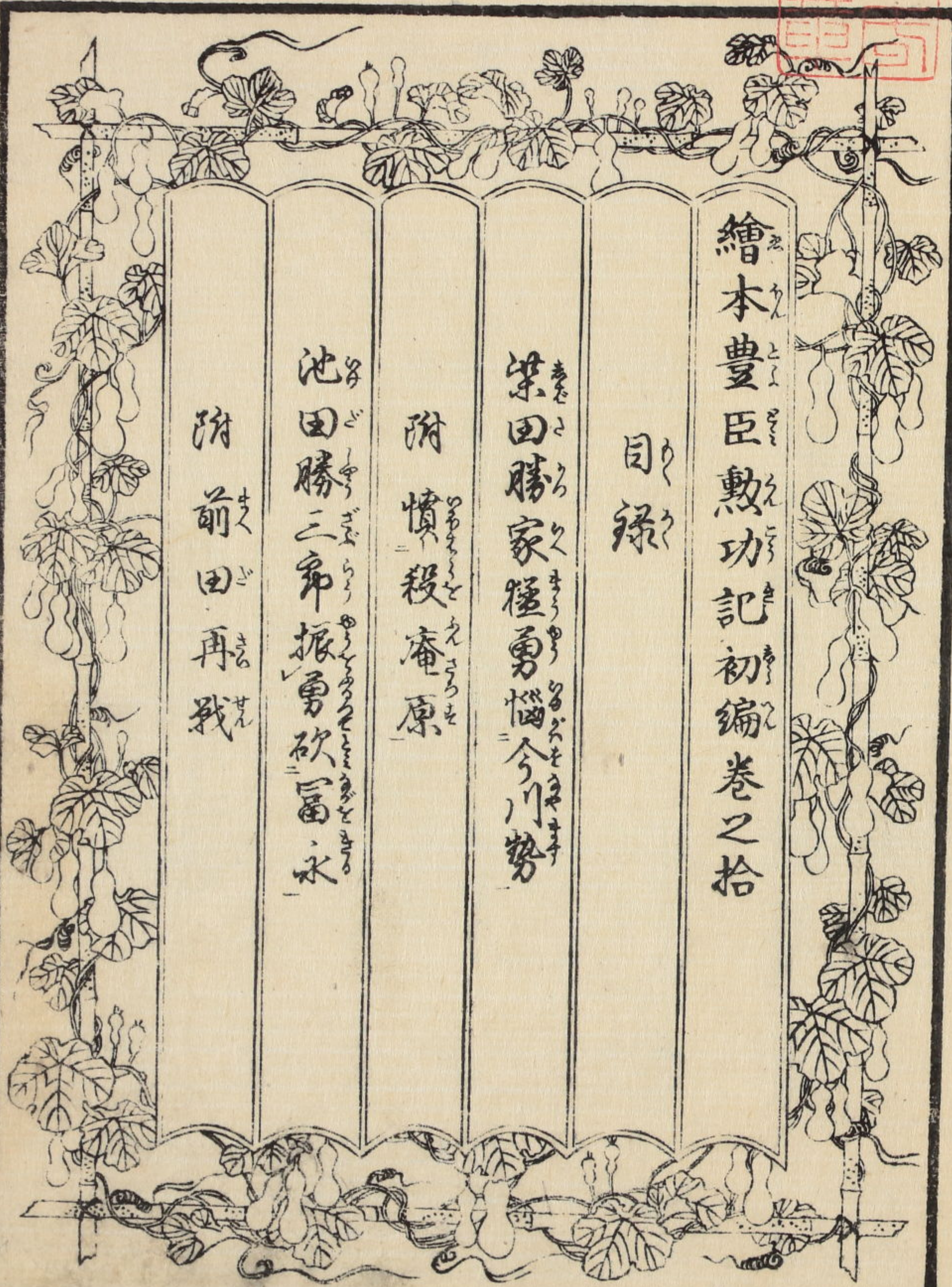


繪本豐臣勲功記

初編

十

4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8



繪本豊臣勲功記初編卷之拾

目録

築田勝家きよたかつら猛勇まうゆう惱なう今川勢いまがわせい

附 憤殺いんころ庵原あやらの

池田勝三いけだかつさん弟あに振勇ふりゆう砍き富永とみなが

附 前田再戦まへださいせん

豊臣初編卷之拾

目録

今川義元戦死干桶狭間

附 駿兵敗小

信長実檢敵首賞嘆前田

附 欵籍叔免



繪本豊臣勲功記初編卷之十

櫻澤堂山 編輯

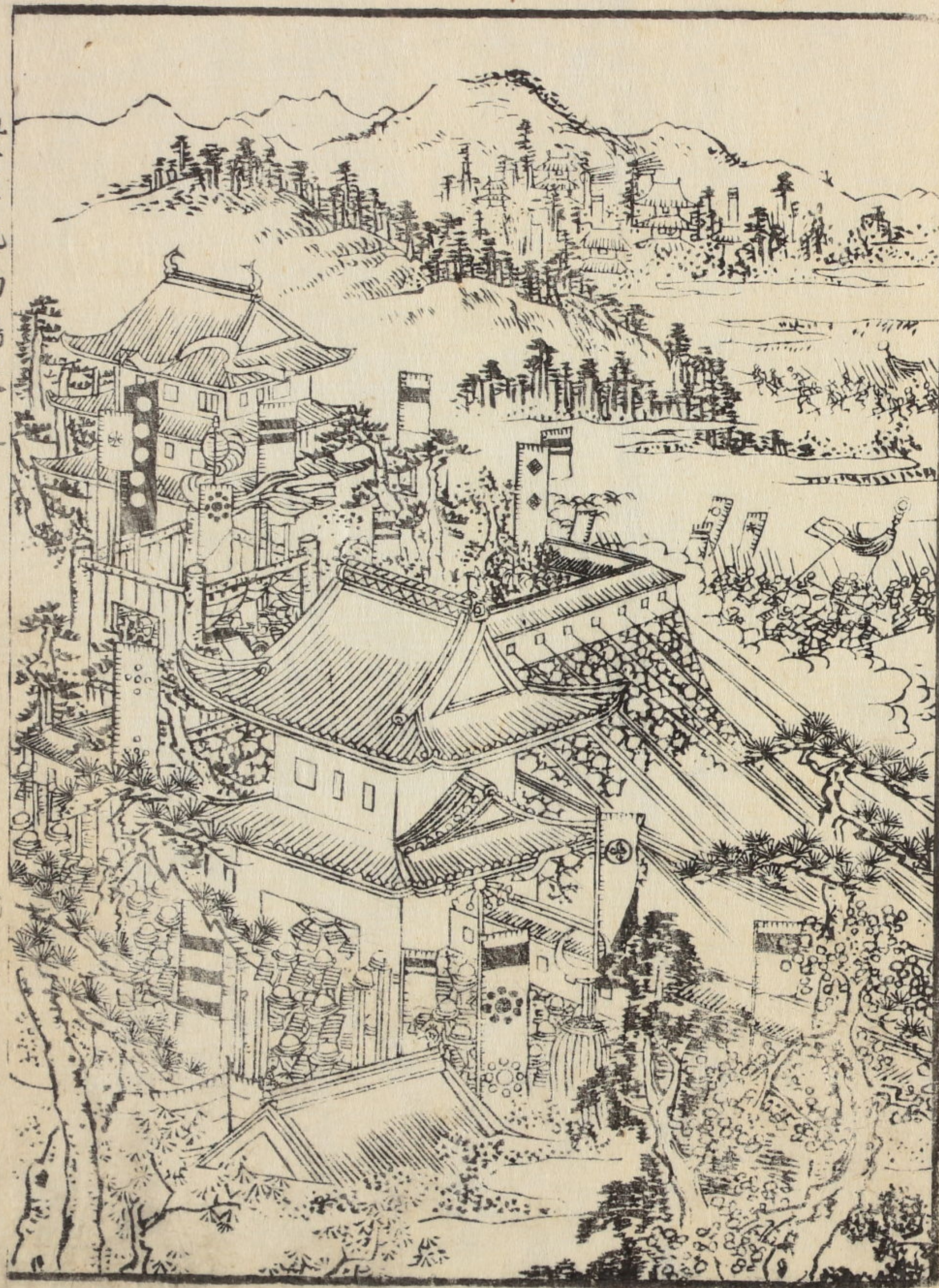


柴田勝家猛勇悩今川勢属憤殺庵原

張翼徳が蜀と補たる小世と其勇と評するの嘆一々きこと
智と判たるの人稀あり記名將たるの勇智兼て備らざるは
如何ぞ百戦百勝すべき然らば柴田權六郎勝家ハ叙て大將の
軍配と美听いふ小も這とふと堪へ敵の大軍と驚うと最目
覺へき挿して五万と听え一今川勢と大丹下へ欺害提
軍せんものと佐久間信盛も秘計の條と告知せ持口者重小
守固えたり今川勢の中寄の要灘と攻取らんと二百余騎
と二隊小ひき部西へ東へ推する然る小西の砦と梶川五左衛門

佐久間左系、二百余騎してあまを守り。東の砦に水野常刀、山口海老之丞、同二百余人にて固めたり。東一向ひ一駿將も、富永伯耆守、於此素小之郎、勝勢なる勢威の令別織圍も破らん。火水小ありて攻起る。此砦の内少い水野山に心をたうて、種一といども、一、百餘の敵軍小、據立らるる戦死する軍員多く、残る多し。那都て、我を肩ぎるりのものもあまを我くが連、こままで他、又小、薨り死んよりなり。山口水野覺初を決し、刺互てぞ死し、りり家、厥い、這際小推、薨れんと、嗚立する現相、十丈の堰の決する如く、山とも拔りんと、人馬一、向、息つたあまを正黒小隊、伍と、計どて、善祥寺の砦へ推進する。這少い、織田の公士大將、真本、共、十、年、伴、十、五、年、と、二百余騎して、捕、籠、る、并、も、善、祥、寺、と

中島の東西二場の杖寨と、地方を面小對する。此のこま、と、ま、る、像、く、然、れ、ど、小、中、考、の、あ、の、杖、寨、の、臨、り、し、う、今、ま、定、め、て、こ、の、城、へ、進、来、ら、ん、を、思、ふ、小、同、も、な、く、一、万、五、千、の、今、川、惣、善、祥、寺、の、城、の、四、方、を、稻、麻、竹、葦、と、捕、圍、む、遠、小、あ、ら、や、西、中、島、と、同、く、一、万、五、千、余、騎、做、事、も、舟、を、手、橋、お、せ、ん、と、攻、め、せ、免、は、ま、據、立、る、二、所、の、砦、の、大、將、の、い、づ、も、別、氣、の、英、雄、を、バ、隠、せ、く、防、我、ひ、一、く、左、右、あ、く、を、入、こ、と、り、難、く、是、が、こ、の、あ、ま、川、勢、も、炮、矢、小、的、て、毆、死、する軍、墨、く、と、して、丘、を、お、す、号、を、着、る、より、進、敵、の、大、將、之、浦、左、馬、助、義、次、を、馳、り、て、下、知、する、や、う、自、軍、の、軍、們、より、吹、ま、よ、織、田、勢、い、う、や、と、防、お、お、と、そ、多、寡、の、初、ま、こ、る、這、此、砦、小、揮、り、勢、ハ、僅、小、四、五、百、そ、ま、と、自、軍、の、一、万、五、千、が、遠、地、小、向、り、



今川の大軍
織田方諸所の
扶塞と
攻陥
之圖



は伍むハ老猫鼯鼠小怖るが如し。言功の多死兵們の如く是れ流
隊伍を魁小。隙隙あり終打薙よ。さきまは城中のりめき起ん
厥時を道さまのり投まやと声せうびり小喚えれバ承介了ぬと
魁隊の軍兵。ふ余挺の鳥銃と。二銃を免て打放くまは百
雷電の鳥動中て火雨焰霰の横相小天地を割る如くあり。中
城中小氣打魂落惘然として途方を知らず防戦の術尽
くると進敵一發小喚起城守柵をささう哉。潮の如く乱投る。
城兵今稱を下と。おのひく小落失く。六城將真本共十部水新
くハ防戦ありがじ。浩く乱死を遂る。從來御さじ勞苦を
むせ小あり。徒死せしと嘆えまん。鬼くも命を棄る如く。大將の所
馬前小く。潔く歿死せん。去来や伴氏退去あま。と真本亦十部が

初むるあぞ十左衛門も現小越こそと五十騎をうくの多きと。あまひ
吾伴吉の杖寨と落ゆり。浩くまは六今川勢今朝より烈しく
攻まふ小う。勢清丸根と始て。東中宿善祥寺。四ヶ所の若
と攻陥せし。あま。正午小過ざりし先やこまう。西小搦し
上中宿小推進んと。二万餘騎の駿河武者。恰も鯨魚の鯨
と追て。波濤を躍るの如くひねり。異口同声小叫起而隊を操
せく。攻著し。若の大將梶川佐久間。決り防戦し。果せぬ。奪て
奪ん小。乱軍中小戦死し。たり。さき若くは焼起す。この間もあ
せぬ。八方より火を燿む。烈火爆くと天を焦す。山原も谷も爆
爛まて。怖る。あま。この進敵をいやく。燒く。五ヶ所の此石の
既落す。まらこの陣を陣へ。信伸せ。布と驅馬りて。桶狭間へ討

一、義元船居大い悦び、一、声高く報く、とうち笑顔と目する、お
 違せし。磯田武軍の戦相は、氣のふき事、少くあり、然るに、今を
 信長が、その軍の風説を、龍虎の像、謂、徇、も、童児、輕、戲、り、
 等、う、ま、し、是、を、り、て、試、る、响、の、東、國、武、士、の、一、人、の、一、武、者、の、十、人、小、
 比、ぶ、と、突、り、も、り、る、り、あ、じ、我、陣、尖、の、利、を、り、て、尾、列、を、折、る、果、せ、ん
 俸、今、又、一、日、を、過、す、と、う、う、も、ど、吓、樂、し、や、と、氣、害、し、打、寬、ひ、て、草、場、小、
 舟、一、款、酌、ん、と、盃、把、揚、不、遠、丹、下、の、落、城、を、信、伸、あ、ら、ん、と、又、と、
 突、び、直、小、清、洲、へ、推、投、し、酌、よ、酌、よ、と、勇、む、の、も、何、の、防、禦、の、備、も、
 なく、安、雨、と、し、て、居、る、ま、り、る、然、れ、ど、丹、下、の、砦、少、い、此、田、権、之、部、將、家、
 前、小、連、る、み、ち、市、の、砦、倉、く、陥、る、何、と、信、伸、あ、ら、ん、と、ま、し、て、所、備、を、
 致、文、の、上、小、及、び、ぬ、時、を、福、さ、ん、款、の、大、軍、進、来、し、ん、の、必、定、あり、然、

とも、長、途、の、疲、も、あり、増、々、今、然、り、戦、ひ、つ、け、勇、氣、も、左、連、列、
 う、る、ま、じ、自、軍、の、陣、小、小、勢、あり、も、新、隊、あり、勇、猛、あり、這、砦、
 小、く、立、日、七、日、を、堪、え、んと、常、易、し、され、ど、此、地、小、安、雨、と、敵、の、来、
 る、と、信、ん、も、地、し、い、ざ、や、打、拵、足、場、上、れ、場、を、見、ま、く、款、と、ま、ち、又、
 平、場、の、軍、小、良、將、を、撰、取、し、て、次、頼、さん、若、擔、た、ま、依、久、間、後、と、
 丹、下、の、兩、城、謀、合、を、砦、の、内、少、い、信、長、の、旗、馬、標、を、ま、ち、大、將、
 こ、小、繼、ら、せ、後、を、余、而、目、小、こ、ま、と、ん、せ、う、け、て、柴、田、坂、井、名、古、屋、
 の、諸、將、之、町、を、を、砦、と、し、お、も、是、場、を、求、て、隊、伍、を、こ、ら、ま、
 依、久、間、森、池、田、依、左、の、凸、丘、小、隊、伍、を、據、ふ、然、し、て、遠、地、の、支、陣、
 より、磯、田、大、隅、守、信、廣、方、へ、使、者、を、り、つ、て、を、遣、け、ら、ん、款、此、
 方、の、兩、陣、小、及、菟、う、り、河、自、勢、を、今、川、勢、の、後、脊、を、絶、裁、

戦ふまよ。その時られ。れも出勢あり。二方一合。小探立人と軍師
 て。進敵をまら。去程。小合川。富永。浦。比奈。服。尾。香。山
 六隊の大將。と。余。孫。の。軍。勢。を。ひ。ら。ふ。合。せ。り。魚。鱗。小。そ。あ。り。
 戦。い。く。と。進。り。し。う。と。際。幾。く。あ。る。ま。り。に。丹。下。の。城。を。見。揚。ま。り。
 氏。の。花。驛。り。く。る。籠。廻。り。了。籠。く。端。々。相。と。ん。て。又。呼。信。長
 の。本。陣。の。這。些。と。こ。を。思。得。ま。り。此。堡。を。一。時。小。攻。陥。さ。り。大。將。を。伐
 捕。こ。と。掌。程。を。指。が。如。く。う。り。尾。列。の。落。去。り。方。僅。這。响。進。め。人
 勵。ま。ま。よ。一。吐。小。喊。を。つ。り。蒐。類。と。進。来。り。柴。田。佐。久。間。の
 隊。伍。を。隊。伍。の。勢。僅。二。子。小。過。ぎ。又。小。合。せ。て。自。軍。を。視。ま。り。
 海水。ど。り。く。粟。粒。と。漂。し。磐。石。ど。り。く。蟻。虱。を。托。ぐ。小。異。あ。り。と。
 先。一。探。小。の。と。殺。と。こ。二。百。余。人。が。一。糸。小。押。逼。ん。と。す。と。い。の。進。り

道。窄。り。ま。り。一。度。小。進。む。釋。か。し。さ。り。兵。部。伍。一。致。ん。と。二。百
 余。騎。を。六。伍。小。中。一。番。多。し。一。番。の。庵。東。右。進。を。大。忠。春。五。子。余
 騎。少。く。柴。田。小。蒐。二。番。小。富。永。伯。耆。も。六。子。余。騎。を。佐。久
 間。小。的。の。第。二。番。の。朝。比。奈。小。之。舟。泰。秀。四。番。の。浦。右。馬。助
 義。次。の。番。も。香。山。備。中。守。勝。吉。諸。六。番。の。飯。尾。豊。前。守。と
 定。免。し。り。清。洲。方。の。大。將。達。今。川。規。の。部。を。小。部。伍。を。合。し。て。進
 り。と。観。り。し。り。柴。田。勝。家。孫。馬。を。強。む。一。鞍。鞆。を。く。突。立。騰。り。
 自。兵。小。指。揮。し。て。呼。ら。る。ゆ。り。敵。の。大。勢。を。憑。じ。て。自。軍。の。小。勢
 を。見。侮。り。進。足。取。次。の。隊。伍。を。棄。し。今。這。場。へ。競。ひ。蒐。り。と。
 一。騎。く。の。功。を。争。ひ。戦。柄。を。望。む。と。知。る。ま。り。自。軍。の。二。子。小。是。す。
 少。の。と。も。彼。敵。を。敗。ら。ん。と。さ。り。難。く。も。さ。り。と。ま。り。又。代。り。勢

明きどりて。勞れ。後いふせん。さうは兩軍をひくとつた。あし。
回隊に部て致る。但系武者小目ありけ。首ねと探
んで毆捕す。大将とさふ。赤橋あり。残る自懸と毆まする
ぞ。意はよやと仔細し。勝家六百の自懸と。若後ふ
たを推出し。まづ鳥銃とらち致す。あち。烟を逐ふ。長
槍の鋒尖と連す。実藁。まじ。瘡むと看ん。るところと。
勝家直地小進出。城とも入つる。虎狼を。左右小掻分け。怒声を
發し。織田家小。その名を真せ。柴田權六郎勝家あり。
今川家の大将小見。糸を。と。自号け。馳發する。相形に
狭皮の獅子王。又小隊で。忽神通と。傳る。像し。今川家の軍
們。禰之尾列小。狀將有と。所知され。備る。鬼柴田あり。

つら。尋常ありぬ。大将と。意も。あき。強合さ。へ。過せん。も。計る。じ。
只大勢ふて。推捕圍。強と。く。め。や。て。付。取。も。と。速。小。碍。精。と。掃。ふ。
の。と。近。き。の。の。あ。ら。ざ。れ。は。菟。原。右。近。大。ひ。し。瞋。く。武。士。甲。斐。あ。れ。
自軍のありさ。ぬ。從令柴田が。鬼も。あ。れ。八。臂。も。あ。ら。ぬ。人。間。ぞ。
や。上。方。武。士。の。墮。弱。漢。は。の。ど。の。功。業。う。あ。ん。東。國。武。士。の。洞。を。
え。せん。厥。を。退。ぞ。と。喚。す。う。つ。馬。と。正。魁。と。強。出。し。槍。を。擡。て。
突。刺。す。柴。田。も。こ。も。を。落。系。と。見。認。て。荒。余。と。う。ち。笑。ひ。今。下。く。
鏝。と。抱。志。と。死。か。う。く。と。あ。し。と。擲。合。さ。り。落。系。擡。く。ふ。れ。も。焦。
燥。只。一。突。と。猛。起。進。と。傍。に。槍。六。勝。家。が。己。が。と。傍。に。槍。執。る。
稱。す。の。の。と。韁。撻。操。馬。と。廻。め。く。ひ。死。返。を。菟。原。も。す。く。後。
み。自。軍。を。離。して。只。一。騎。い。づ。追。り。を。追。束。る。時。分。は。し。と。

徳川家康の御書



丹下城外の
合戦 柴田
池田が勇猛
烈しく今川勢
を敗殺せしむ

此田勝家六二尺二寸のち刀銃うぎ。身と翻をよと目くくりしが右
 近方夫の持たる槍の真の中央より砍折て吐の向ふ亞のち刀丁と
 毆バ遣の大神をちまふ裂右の腕をちちう切る。ちまふ不當の
 勝家。破らしてちうぐの堪るべし馬より撞とちび墮ると槍ちが
 徳多士。柴田源左衛門走槍提く壓つて首を刎。勝家これち
 見ぬはあ。九百余騎をまん丸ふとて。みちと听下敵兵を。せ二
 せで敗まて。柴田勝家自伝とて。捷喊あけて還らるる
 他田勝之郎 振勇 富永 属 前田再戦
 今川方小ひく。二番のち富永伯耆守氏繁。方僅目小

唐原からこれとて。つるも。業。とて。突出。先。ち
 これ小継。此田を毆て。唐原。吊軍。せ。ち。五。千。百。余。騎。あ。め。い。て
 免。ま。へ。尾。列。方。より。池田。備。三。守。信。輝。六。百。余。騎。の。ち。士。と。率。ひ。柴
 田。小。次。代。て。富。永。水。が。五。子。の。勢。を。出。逢。ふ。抑。池田。が。軍。配。は。百。人。の
 騎。率。を。正。魁。小。と。て。ま。づ。右。腕。を。お。出。させ。二。百。余。騎。の。ち。武。者。が。ち
 り。ひ。く。小。百。個。の。士。率。槍。難。口。の。長。柄。ど。り。を。羽。翼。に。備。て。隙。間。を。馳
 起。り。富。永。氏。繁。を。ち。小。唐。原。が。毆。ま。し。軍。小。揃。過。る。ち。え。ち。率
 て。敵。小。旗。を。惜。し。う。命。を。換。し。て。我。の。隊。伍。を。整。り。て。進。ん。と。み
 千。の。ち。士。を。制。滅。つ。槍。と。馬。を。強。せ。池田。が。隊。相。を。窺。ひ。勝。ち
 郎。に。これ。を。ち。て。噫。異。に。し。き。小。心。る。使。近。づ。ち。と。指。揮。か。し。て。ち。際。幾
 歩。小。あ。る。よ。ち。見。下。が。右。仕。構。あ。る。右。腕。百。挺。つ。る。槍。ち。小。う。せ。し。て。ち

伯耆守が魁隊の志士を果倒し小隊を侍する。これが為小進は懼怖
 多う入つて下り池田の勇士二百余人瀕死して突散る。其間
 より百人の志士。同様の槍擲を揮つて瀕死する。こゝに於て
 難刀列位。勃然として難を断る。斯に難を断る。操着るを富永
 勢を益く崩して右側を倒し。急小退んとす。是を以て右の源田
 往來の道窄けし。脚撓る。弓方小將落馬し小振び。狼狽と
 て退んとす。是を以て源田の勇士。長柄の脱突。烈然として突立
 つ。是を以て追捲る。今川殿の兵兵立。岸薙て敗走す。富永是を
 見るありも。吁。死自方の拳動。形量の款小斬る。是を以て
 ども。崩る。癖ある。勿く隊位を整う。是を以て。今。源田

まを扶塞と臨せし。疲もあま。強烈奮弛の池田勢。近散る。ま
 て。些も隙。と。御下首。と。逃惑ひ。踏る。源田の睦。と。倒つ。踏
 びら散乱を。富永一騎。踏止。我子と。ある。と。稱。と。槍。把。整
 して。返。と。心。魁。小。馬。と。跳。ら。せて。池田。魁。隊。の。歩。を。と。忽。地
 小。四。人。抛。出。し。る。ま。ま。池田。が。志。士。今。日。と。際。と。形。と。これ。の。
 臆。と。る。色。と。富。永。が。る。の。希。後。と。推。搦。卷。倚。合。せ。し。槍。と。属。し。り。
 伯耆守の臆の如く。際際あやむを戦ふ所也。池田の士序相才た
 出。門。名。院。提。さ。げ。近。づ。け。倚。脱。決。め。て。火。蓋。と。敵。小。器。と。て。賭。と。打
 ら。し。ま。て。氏。懸。と。し。も。た。ま。ず。馬。より。擡。と。地。を。く。く。落。る。と。そ。の。
 僅。守。た。束。縛。と。是。は。傍。へ。首。と。提。る。是。と。看。る。より。み。千。金。鎧。首。好。殿。と。て。方
 僅。は。し。也。一。夫。半。刀。遮。り。も。せ。ど。是。是。地。首。と。途。と。失。ひ。深。田。小。墮。と

徳川実録 卷之十

九

軍あるあまの。橋きて赤は深るも背。今迄ふ千と所えくじも。退
 結く毆ましく。忽四五百小斬滅され。這く敵地を遁る。池田
 の勇士五百余騎の。勝岡峯で退返す。唱海河原小拒する。船比
 系。と浦。葛山。飯尾の四将の富永。藤原の二将をうけて大不勢
 き。これの自軍の大勢を。憑で思急る軍を。し。影入。困。死。取
 と取ま。這。遭。の。四。列。一。處。小。推。進。せ。次。弟。を。守。り。て。蕨。を。一。と。部
 合。て。推。進。を。佐。久。間。右。衛。尉。坂。井。右。右。衛。尉。と。次。弟。を。守。り。て。蕨。を。一。と。部
 小。部。一。子。余。騎。の。軍。を。陽。小。部。守。り。て。傍。合。せ。今。川。勢。を。提。調。ん。や
 操。の。人。を。改。め。る。柴。田。池。田。の。後。陣。を。統。率。佐。久。間。森。右。衛。尉。古
 屋。坂。井。の。四。將。の。一。を。ひ。こ。け。戦。死。た。り。た。る。後。一。一。も。退。る
 せ。退。上。と。進。不。和。一。合。今。川。勢。の。二。百。余。騎。を。人。と。も。お。り。の。で

蕨。う。け。り。蕨。小。鐵。田。大。隅。右。衛。尉。の。二。子。之。百。の。勢。を。り。今。川
 勢。の。隊。將。を。統。率。打。ん。を。推。出。せ。と。目。を。し。う。り。飯。尾。葛。山。心。徳。と
 進。上。と。進。不。和。一。合。今。川。勢。の。二。百。余。騎。を。人。と。も。お。り。の。で
 大。隅。右。衛。尉。改。め。ら。れ。双。方。と。も。小。部。合。せ。果。あ。る。は。し。と。飯。尾
 葛。山。一。子。余。騎。隊。位。を。右。衛。尉。右。衛。尉。を。操。出。し。鐵。田
 信。廣。と。併。戦。ふ。船。比。系。と。浦。の。一。百。余。騎。の。首。を。右。衛。尉。佐。久。間。小。向
 り。と。し。悠。る。末。富。小。義。元。朝。臣。唐。原。富。永。の。表。お。が。毆。ま。し。中。を
 吹。と。む。と。く。大。小。部。を。統。率。小。部。合。せ。魁。隊。の。多。し。軍。相
 等。閑。あ。ま。の。形。も。ふ。ふ。二。人。の。勇。士。を。配。せ。し。り。子。弟。の。出。陣。池。田
 と。遠。不。付。捕。て。自。軍。の。二。將。小。部。合。せ。松。井。右。衛。尉。八。つ。み。子。弟
 小。部。朝。比。系。と。浦。が。援。を。せ。し。ま。し。り。船。比。系。備。中。也。江。間。右。衛。尉。

豊臣記 夜續卷之十

十一



前田大十郎の戦



前田大十郎の戦
大隅守の隊
中ふかまつて
存び猛戦
する圖

豊田言存編

渾井藏人石川新左衛門尉二万余騎... 渾井の款を改座し... 向ふ然不鐵田大陽も信度の一千金... 陣とも小魁と争ひ相とれ... 佐々隼人千秋四郎... 勅つら。河内渾井... 小別前寄あらん... て擇もとも大河の流水を規... 更代々。中小軍で改... 齋小監も... 信るまへ... 若田大千代... 駿率も率はず...

大余の槍と柄長小把て馬の車頸... 比地と押掩... 河内石川が一万余餘騎... 動揺めれ立... 濁巻なる... 獲し。騎士赤軍の陣ひさく... 右地右地小擡起... 陰の立焔る烟... 此は比奈備中... 陣中より... 遠別濱名の... 小。宮戸孫右衛門友成と... 若田を... 擡... 大。代。登... 右領小擡... 完戸... 誦... 股小中... 二... 辻... 左小... 把... 一。... 得の... 友成... 足兵... 首を擡...

破る。今川方の大軍の這勢は小懼怖を懸てたる中より
江向方なるに成親と名をふるもていりさん小馬を逃らせ搦薙
こと。若田もなまらけ。こ四合流をあいせし。終るは東に
漏れて。又喝一討首捉り。これ等も員の始終とて。今日一日
の戦ひ小若田が膝を捕り首の級十九級とぞ所する。他軍も自
軍も一月小目と懐りして感し合ぬ

今川義元戦損千桶峽向属駿を敗北

減劫盡き。天も雨れ。増劫成ば海も丘る。鳴車もさび
十列百部のまじり身も。運行動し終るとは。滅小令と
適うは道ありんや。備も今川治部大補義元。四万六千有餘
勢の大軍を二隊小領ちて戦ひたる。富永富永も懸隊の合

戦。織田のゆかりは深く。後將二人戦換りし。海通條の戦
小も。江向突戸を鋸とて。多くの勇士を若田小伐ま。をこし
むるんや。今川方の大軍もま。新築の台と交代し。
織田の小勢を掃き。火水とまつて戦ふ。さるは桶
狭間あり。義元朝臣の本陣あり。軍の饒。溪のそぞ。付甲斐
も。く懸隊馳せて。富永。富永。完戸。江向。その外。多くの勇士
業。戦換せし。本を後進せし。義元朝臣大下。若田。目。此。予。も
ぬ。自軍の法。好い。ある。軍。と。あ。つ。る。事。さ。る。で。取。手。律。や。ら。う。と。
面。く。急。に。弛。向。あ。く。功。柄。起。せ。し。尾。張。武。者。業。田。池。田。と。信。じ。
若田と。つ。り。小。勇。士。輩。と。一。個。も。あ。ま。さ。が。取。提。身。ま。使。う。ち。案。し。
賢。い。と。効。え。し。も。旗。下。の。勇。將。も。あ。ま。さ。と。亦。ま。や。と。既。大。好。の。馬



義元田樂窪
 の本陣小騎酔
 志く自方諸
 河捷軍此注
 伸と所

豊臣記初編卷之六



豊臣記初編卷之六

十四

まつて一千余騎少の過ぎりけり。其の上遠地へ峻岨ふして山の峻向
 小陣取てまゝ地形坦ちりてして山脊の味方の所知る。前を
 軍勢散ら小隊仕を連のしつゝ各器あつざる。あつたはさ
 まバ小心小も及び少。草場小部を毛糧布らせ酒を煮て
 ちる。又日向間渥井が陣中より鐵田の勇士依り集人秋
 四郎が首を饒々大羽の實捨入まし。義元が居る
 久とをとし。さもあつた事小せん。自軍の諸勇士よくぞ戦功
 と備らまはる。義元從來の個性の徳の時節のたえあつたので。
 獲ちたりとあつた。着上御下方儀小信長の敵をも憚るは
 金一尾羽を平泊せん。今明日とこまにうら。呼樂やと
 大口軍は事も微きふらち笑ひあま。壘を過さんと風加

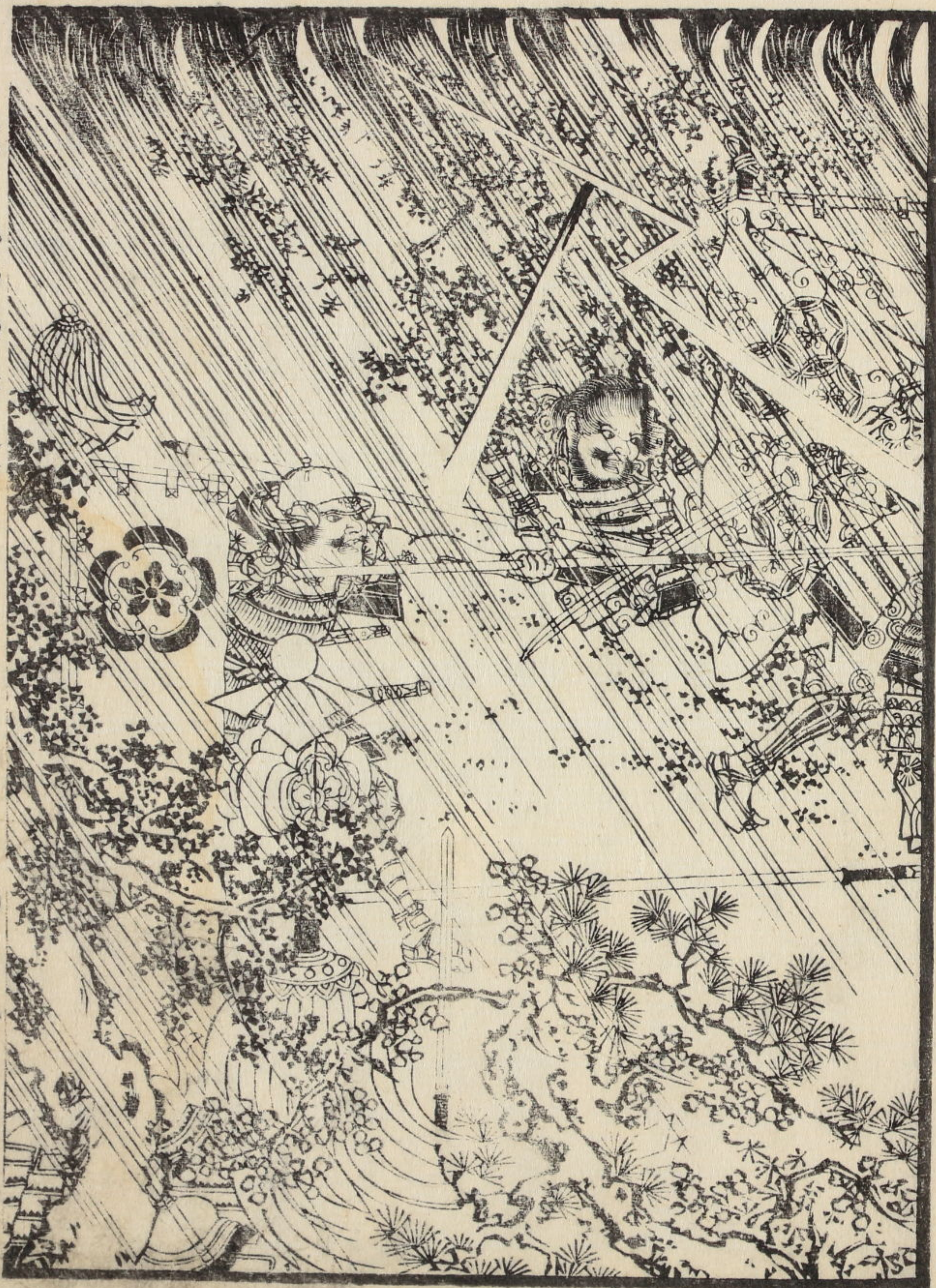
門とひる意從小酌と把らせ。他ことあり。拖削く。馬を傾
 る。こゝで謙慮もまよふ。信長は。路背小あつて。海乃
 方小。車いする。鳥銃の音。人の馬の叫びと。余下り。所
 惜々地小打せ。閑道より。今川義元のか陣と。當的て。ど
 進らまはる。小。頑々。あふ。秀吉へ。密々。小。今川の。本陣。小。列を
 龍が。別まは。せ。勢。少。て。積。由。路。の。徳。あ。つ。た。こ。と。を。隠。ま。す。も。仔
 細小沈復し。これ必勝の响なり。と他事をこを把て返し。信
 長の叱せし。山。凹。小。純。度。を。い。と。が。い。く。若。あ。つ。た。や。う。使。暮。ら。せ
 給ふ。一。實。小。万。全。の。時。節。を。あ。つ。た。と。勅。め。あ。つ。た。を。こ。し。う。へ
 侍。小。侍。する。响。あ。つ。た。の。よ。や。及。ぶ。と。大。將。信。長。鞭。鏡。一。斎。を
 馬。と。せ。え。遠。出。あ。つ。た。馬。前。の。法。士。程。免。が。ま。て。ま。君。と。謀。め

大切の清身せりて。正懸とてをむふ。後、始末に事小にせしむ。敵の言ふと決然として進ませむとて。運たことし。備置し。強く止まらざる。信長方右小甲首うら振。各休が可。遠ふとも。敵を今朝より軍に新提倦。まこくる。名軍多し。其上大將義元ハ。後軍小心。強も。遣焼も。況多。休身をせしと。必き。関。こき。必勝の响と。せ。来るれ。ま。と。自軍。今朝より。輸戦のそ。な。軍。心。自他とも。小。進。寇。らん。と。慮。も。よ。ら。む。新。ま。て。敵。は。由。別。させ。不。意。小。推。長。擧。起。る。心。定。勝。利。と。ほ。づ。れ。あ。り。審。せ。り。て。流。を。設。と。い。ふ。奇。術。を。こ。ぞ。人。々。急。お。心。ほ。る。敵。落。思。こ。る。誠。子。夫。の。與。り。時。あ。る。こ。こ。は。遠。遭。の。合。戦。あ。り。或。味。捕。せ。し。と。は。今。ま。

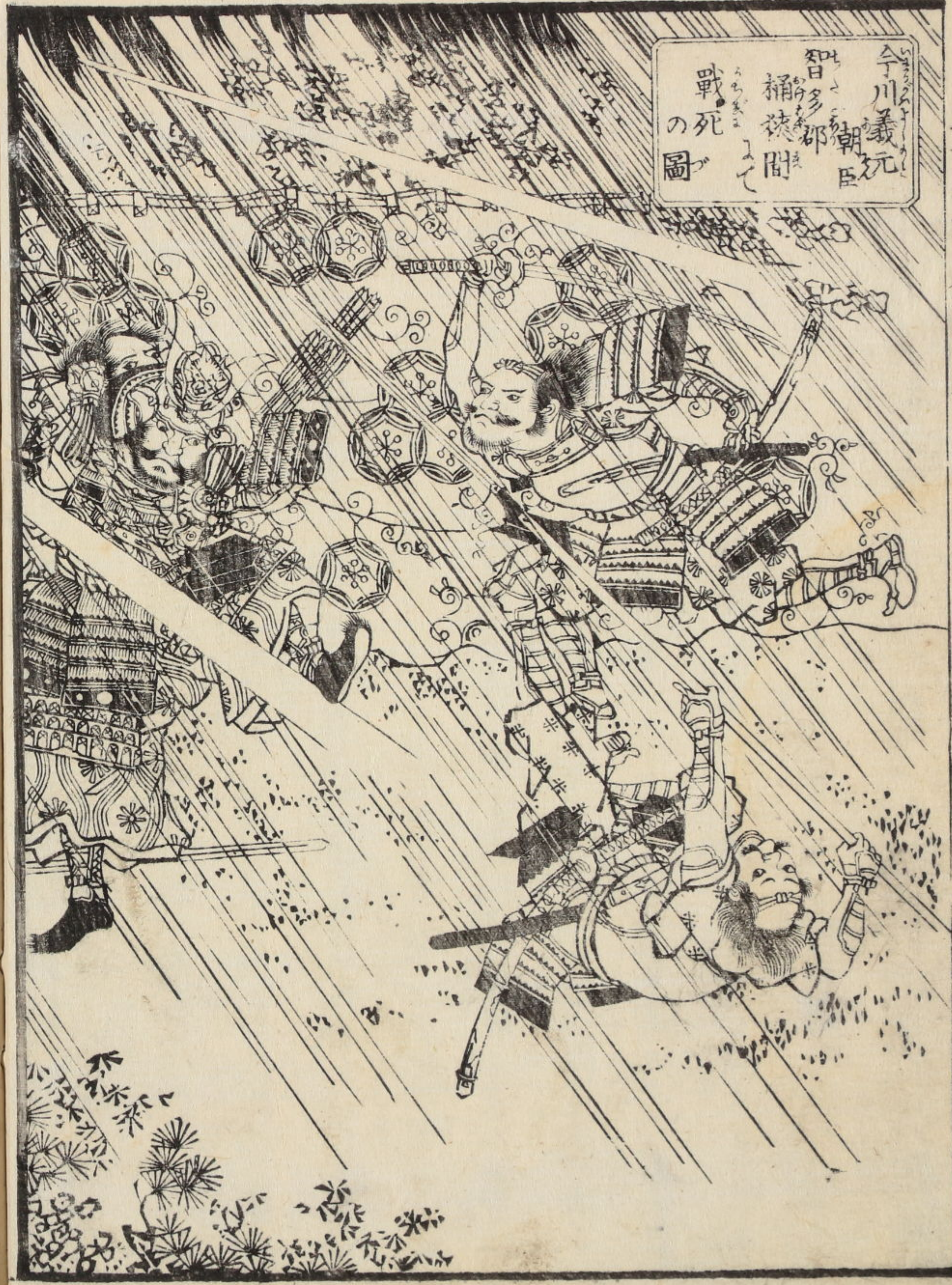
只菅大將を伐こととせ。一。小。せ。賢。と。指。揮。を。を。声。を。例。の。大。善。虚。隙。あ。る。せ。て。命。せ。る。法。士。も。これ。を。兼。听。し。い。ら。さ。ぬ。形。の。响。と。こ。そ。君。も。信。也。も。結。り。力。之。今。更。闇。夜。も。曉。彌。中。り。不。思。つ。心。冷。く。ぬ。い。と。獲。く。然。と。皆。躍。た。る。清。る。不。動。の。血。小。を。を。其。列。せ。来。小。た。り。る。鐵。田。家。の。勇。士。中。川。金。右。衛。門。尉。毛。利。海。内。も。同。彰。助。佐。久。間。孫。六。郎。平。小。子。小。將。首。器。操。り。大。將。は。清。希。へ。馳。來。る。鐵。田。家。是。を。清。賢。あ。り。軍。首。よ。り。せ。い。と。は。は。今。川。義。元。を。本。陣。あ。り。背。甲。の。山。へ。馳。遠。く。ん。然。を。ん。お。い。食。心。際。ま。で。離。せ。ぬ。を。書。き。結。び。唱。を。法。め。て。情。進。る。べ。し。先。也。進。め。と。清。下。部。軍。勢。倍。く。況。亂。と。烈。は。極。威。を。甚。し。と。進。む。時。境。不。思。後。也。鐵。田。家。の。用。運。さ。る。時。并。到。來。の。奇。瑞。と。見。入。熱。田。の。

官の方小申すて黒雲蔽以不懸く起し。糧雨去れり不降
 う。暴風沙石を吹飛し。万籟をさくあるまじに海面を
 せ清ぐらゆ。園味却て怒潮激しく。矢も碎くたう。里小
 出。山は雲をくわく。向く。程さへあつて西南より。松の子の雲
 電裏を穿り。方儀や世界も裂るを怪しむ。不どの鳴動し。
 咫尺の諸先ども見え。強らざる公進る自軍の。士と款陣
 とくあること。覺えぬたう。里の有格を。強を。怪
 長の帷幕の外まで進ると。知らんや。好雨こそと。休る。居る。法
 中へ。織田信長の旗。か。九捕使。同あつて。海の小。不。登る。を
 奇しく。一。同。此の。紋印。う。る。之。る。旗。と。其。日。親。と。押
 之。強。ま。る。か。ま。よ。と。指。揮。の。し。し。し。織。田。遠。酒。原。指。節。小。事。

林藤八色利新助。森之た出つ。中條小市。遠山を。能。利
 河内也。篠田出羽も。あ。ん。どの。推。士。正。魁。進。ん。で。強。も。あ。る。が。
 森之た出つ。中條小市。敵と大勢あり。う。ま。ぶ。郵。起。て。首。魁。り
 あ。い。を。隙。に。隊。伍。と。と。と。あ。わ。さん。御。隠。本。を。あ。い。を。あ。ん。
 馬。と。強。投。湯。新。さ。を。あ。と。り。余。信。長。実。最。と。槍。把。整。し。て
 進。ま。せ。あ。ふ。雨。風。ま。を。く。暴。し。し。し。黒。雲。四。面。を。覆。ふ。を
 色。白。書。ま。も。も。黒。白。も。明。く。ぞ。喚。叫。を。馬。を。馳。投。四。角。南。小
 折。起。糊。伏。血。を。湛。せ。く。強。巡。る。今。川。勢。の。急。を。棄。ま。あ。て
 慄。起。録。也。此。の。謀。叛。人。の。ま。る。事。次。目。ハ。口。津。の。あ。り。ぬ。る。由。也。と
 遍。互。不。心。と。顔。合。極。を。合。や。推。合。中。同。士。敵。を。し。て。嘆。動。す。



今川義元
朝臣
智多郡
桶狭間
の戦
の死
の圖



時ふ今川義元と。龍虎と画する金箔おのの厚風と饒らし。
毛遣布せ。油搦の卜小宴せし。本下藤吉守。走入中樹也。
とれ石も碌る。たぐり。の。大喜声と。衣をそく。是は清洲の城を。
織田上総次平の信長。見糸のこりまわり。う。會く。沖首と。
賜ふ。一と。謂も果てぬ。小林者。八舟。與世中。條小市。後定。厚。
風と。た。友。搦。去。ま。つ。脂。船。小。平。右。宗。淡。が。突。と。進。ま。儀。義。
先。船。首。の。右。は。船。と。あ。る。く。不。刺。徹。と。ま。ま。こ。も。最。期。最。佳。
持。つ。る。ち。方。を。把。整。し。後。船。小。平。右。宗。淡。の。さ。さ。せ。血。烟。と。そ。殺。男。
と。刺。し。つ。こ。ま。不。續。て。た。手。より。毛利。新。助。秀。詮。一。喝。を。う。
自。号。う。け。擲。放。槍。と。義。元。船。長。統。さ。し。の。を。し。擲。止。ま。る。毛利。
新。助。淡。も。あ。出。し。て。を。取。と。る。刀。を。擲。く。義。元。腹。肚。男。殺。

刺徹し。遂小但し。此動を。義元船長。お孫人の。刺了。
秀詮。が。た。の。指。を。奮。む。う。う。小。嘔。者。々。も。も。新。助。こ。ま。と。異。
ともせむ。終小首と。伐落し。ち。刀。の。刃。尖。小。貫。つ。て。足。踏。ゆ。
して起揚る。尾羽加多郡大原村清涼山曹溪寺。小今川義元船長の位牌。
公大居士神儀とあり。牌脊。小。の。永。福。之。年。庚。申。五。月。十。九。日。後。別。府。中。之。城。之。
今川治部大輔。源。義。元。与。尾。羽。法。測。之。城。之。織。田。上。総。次。平。信。長。合。戦。義。元。不。利。
終。於。捕。獲。間。戦。死。於。年。四。十。之。歳。也。當。山。首。二。祖。立。若。引。導。導。導。導。導。
此。一。畢。と。あり。義。元。船。長。の。塚。も。當。寺。の。西。八。町。石。九。と。い。ふ。小。今。川。
む。一。義。元。朝。臣。行。年。四。十。有。三。歳。清。和。源。氏。の。名。家。と。して。
東海通。不。重。び。あり。武。勇。尋。常。あり。と。る。し。も。運。命。ぬ。ま。い。致。す。
う。り。岐。の。塵。土。小。消。果。る。ぞ。喜。あり。ける。詞。も。な。り。毛利。新。助。秀。
詮。の。義。元。の。沖。首。搦。と。信。長。の。御。前。小。祇。儀。を。し。新。助。こ。ま。
敵。の。大。將。義。元。の。首。級。を。伐。捕。て。ゆ。と。て。不。捕。し。と。る。今。川。家。の。

重宝山蛇の名剣此は刀の今川氏一具小号と實檢小俱一
 千顆万顆の玉よりも得てはたりの
 這敵あり。それと容易く伐取こそ。番上、世二の飲ひかきと
 義元の首小向をせむひ殺しの波堰敢て了得名なるは良
 ありしも。新果給ふ痛ましきと。息あまきび花さじく
 傍辺の公輩も。不覚小體の袖を濡しぬ。本下秀吉進出。我
 君の千幸苦しくた多ひも。這首印を流るる思ふ
 起つるあり。まゝ諸軍士の粉骨も。この首ひらぬの故そりし。
 乾いたやく這首を。他を自公小つんせむふし。腰をまき自軍
 ハ勇を信し。化をハカを失ふて。自然小唄きひ下。と効め
 まおらせたる小より。毛利新助まゝ存び。ち力の若小貫きとて。

大言声と發しつ。今川治部大捕義元船居と。毛利新助お取
 たり。是見ふやとこそ呼ぶるこれ。傍小なる織田の人々會ふ
 小大將々の如く討まき。遠冬の今川勢。別々ハ推せ
 馮心して。合戦を奮きややある。名もやく曹を脱。踏糸は
 て命を保ち。故々小還る。そ万全ありと。峰なり。嘆きと喜ぶ
 朝比奈備中守をえいめとて。丹下此を攻破らん。と
 捕圍む。今川勢。強く敵ら。本陣のうを所まとい
 おも大將の首中見入り。滝の事。怪し。小思。意とあ
 ぐ。途方も知れぬ。殺れぬ。て。迎惑ひ。殺を棄て。伐まき。又
 ち刀馬具を棄て。律も揚て。美。織田勢。た
 やど小延ら。軍勢を還收。中小。能く。織田の勇士。

豊臣評伝 巻之十

二十



豊臣記 卷之十一



豊臣記 卷之十一

桶狭間の義元
 敗れて今川の諸軍
 敗北する圖

下宮九郎左衛門と云ふ士あり。今川家の同明林阿弥を生捕て大將の陣一連を断る。信長あまを喜ひし。首員捉る。切名より。遠小勝も亦切柄小こと。九郎左衛門と云ふ。今日伐取る。首をも。彼林阿弥小見せり。小渡と去小こまを視領也。假名實名の知るもの。六十余人あり。余の救を助く。二子五百餘級あり。最目覚し。其事あり。ゆきや

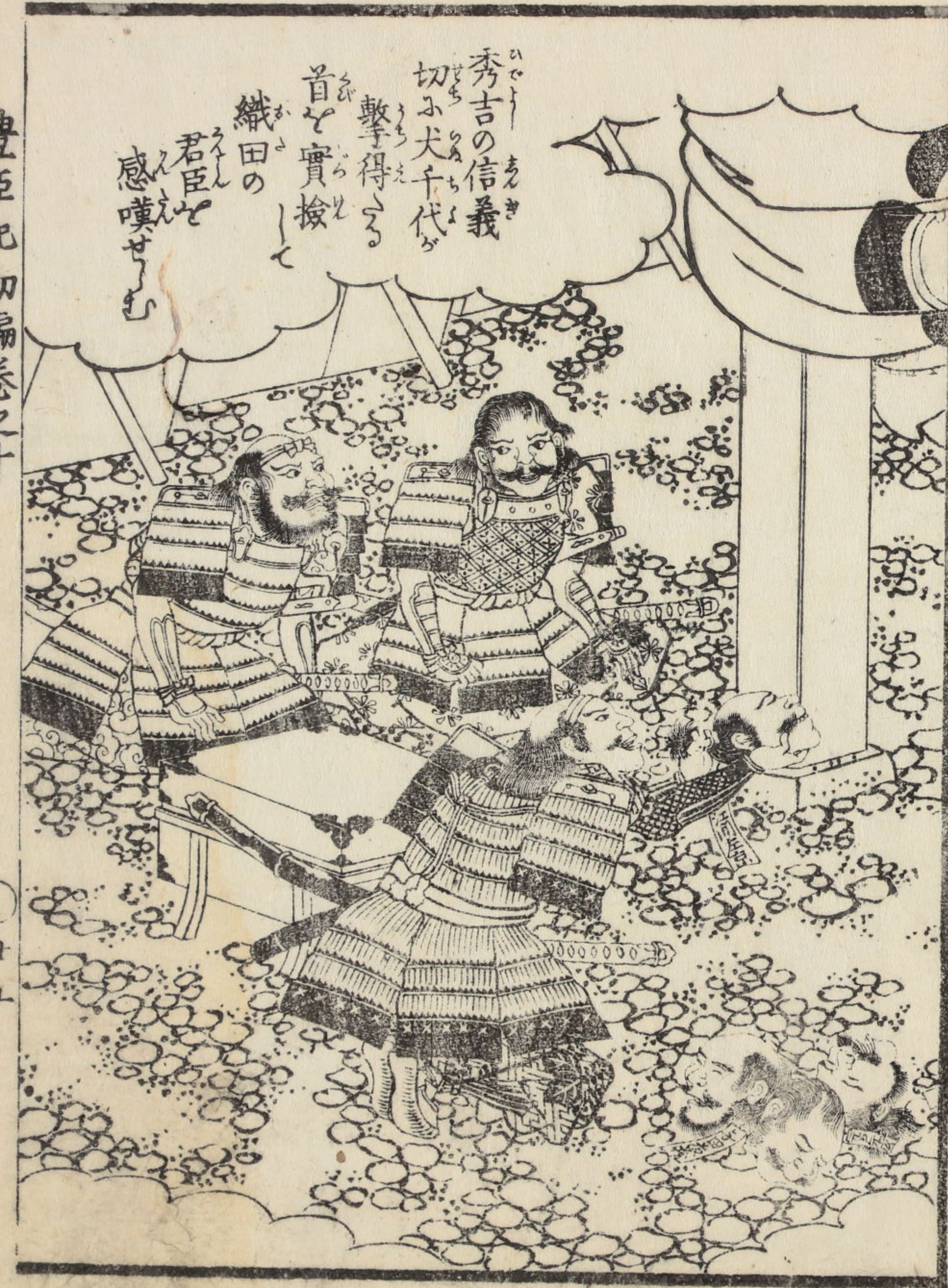
信長實檢敵敵賞讃前田附缺籍赦免

百乘の園室一燈を消て。咽小。千丈の瞋慧寸忠を。法も亦も。這遭の合戦。今川の勢。四百六十。有。余。勝る。小。鐵田勢。僅六十餘。尋常小。関。務。小。せ。ら。る。と。由。是。さ。る。づ。れ。也。唯。臺人の秀吉。方寸。小。と。大。敵。を。以。時。小。敗。果。せ。緯。一。代。

後世ふての。と。云。ま。ま。に。も。終。を。終。知。ら。ま。た。る。さ。る。程。小。信。長。の。法。例。一。凱。陣。ま。し。く。て。借。ま。の。勲。功。を。感。賞。あ。ま。り。法。將。の。く。次。弟。小。退。出。さ。し。け。る。以。本。下。藤。吉。部。秀。吉。二。人。の。決。争。小。多。く。紅。首。を。相。齊。せ。つ。と。出。實。檢。小。入。ま。さ。り。ま。つ。る。鐵。田。敵。あ。ま。と。見。ま。つ。首。小。の。く。牌。を。射。つ。つ。何。お。と。や。記。し。つ。と。傳。せ。た。多。く。今。川。の。臣。家。江。同。左。衛。門。元。首。と。あり。下。宮。九。郎。左。衛。門。宗。國。王。の。自。體。小。殿。と。題。し。つ。信。長。を。と。親。む。て。嚙。嫌。ま。り。遠。首。の。圖。る。勇。士。の。江。同。左。衛。門。元。首。と。討。つ。破。首。田。の。平。が。缺。籍。を。免。さ。し。そ。を。悔。を。戦。死。せ。し。つ。と。不。便。小。思。し。て。筆。色。あ。ら。ま。り。眼。中。小。泪。を。滿。し。潜。法。として。酸。鼻。し。ま。ふ。下。秀。吉。又。一。個。の。首。を。出。し。て。實。檢。せ。し。む。こ。ま。

少い遠別演名の任人穴戸孫五郎有原が首。若田五郎末吉の首
 一級を付。と墨くらりと記。信長は、恰も思ふに、
 さへ長人ありたる身にて。忠義を忘るるに死すべし。期も我を
 思ふに、孫吉郎亦一級の首を出さず。此首牌の誰が撃つるやと
 少く。孫吉郎亦一級の首を出さず。此首牌の誰が撃つるやと
 信長は、恰も思ふに、今川の家事版尾豊前守の部。松山
 影石が、誠。若田某も、首を伐と筆記せり。織田殿は、よく
 嘆賞せり。備も、思ひ俵も、活る播せり。のれを、惜むる
 死させ。事より、信長は、信長の咽、小つまるせ。又首二級
 首出さず。撃つるも、信長は、ぬお千代。敵も、今川の信長
 園口飛人氏徳が、首。今を、この功牌の、赤間者、若田が、首とあり。

信長は、信長の首。一級。是も、若田が、討たる。山や。と訊ね。又、若田吉郎
 信長は、針。少い。いら。と。後、末實、検。せ。し。の。首。の。犬。千。代。が。
 陰下の功名。小し。と。此。この。旗。首。の。右。刀。打。の。切。當。小。て。ひ。な。り。
 一級。づ。の。首。の。暈。背。を。一。回。一。下。小。實。格。せ。し。又。も。く。と。若。田。が。牌
 の。付。たる。首。を。出。す。と。此。九。を。員。十。九。級。信。長。今。の。旗。の。事。小。尋。る。
 懶。たる。も。を。判。果。且。の。感。嘆。膝。小。徹。一。執。湯。の。妙。丸。洞。を。も。う。階。下。
 要。時。の。初。も。お。つ。さ。し。が。稍。あ。や。せ。拂。淨。た。ら。ひ。形。量。の。誠。を。一。個。一。て
 討。果。する。播。の。恰。も。鬼。神。の。不。當。の。置。犬。千。代。が。切。と。思。ふ。と。海。も
 形。船。の。思。も。を。や。と。鬼。を。狂。言。く。信。長。も。稍。淨。法。小。沈。ま。せ。又。も。若。田。吉
 郎。も。悲。歎。小。橋。を。徳。傳。守。を。落。後。あり。余。の。如。く。犬。千。代。の。勅
 命。免。り。と。は。得。じ。も。這。こ。ひ。の。合。戦。の。君。の。沖。大。事。ぞ。と。存。む。る。う。ら。



秀吉の信義
 切ふ犬千代が
 撃得たる
 首と實檢
 織田の
 君臣と
 感嘆せしむ



一隊ありとも法敵を多く獲はるゝ戦死ありし不便の者於亡骸やと
 御覽もあらば万石の法加増よりも嬉しとて、然津九根の戦
 場々大隅守殿の法隊小加するを命惜まて戦ひしが、造化よくも
 多々都て切巻の強下向刀のよ小いて追撃したる首は多く捕ら
 各切名を争ふ場小く、法敵籍の身の大千代小、雖も怖くむとの
 首をも取らざる不謂能作能きや、倉渠一個の働ありと、若くは
 上総及び係の市田利昌が一子ありきと、勅當最つる身あからむとの
 大軍の合戦と闘て、生俘敵地小向ひ、命を奪て、新まを小捕らる
 ちを健なるも、類を比する小ゆけもなり、皆平感志を、惜む
 屋しと、日東の軍營又似るありと、声と殺ちて、法助を列者の勇
 士も借小、不覚涙を惜し、最殊り、法提軍の拳せり、と、先肩

と、法助、法敵を多く獲はるゝ戦死ありし不便の者於亡骸やと
 御覽もあらば万石の法加増よりも嬉しとて、然津九根の戦
 場々大隅守殿の法隊小加するを命惜まて戦ひしが、造化よくも
 多々都て切巻の強下向刀のよ小いて追撃したる首は多く捕ら
 各切名を争ふ場小く、法敵籍の身の大千代小、雖も怖くむとの
 首をも取らざる不謂能作能きや、倉渠一個の働ありと、若くは
 上総及び係の市田利昌が一子ありきと、勅當最つる身あからむとの
 大軍の合戦と闘て、生俘敵地小向ひ、命を奪て、新まを小捕らる
 ちを健なるも、類を比する小ゆけもなり、皆平感志を、惜む
 屋しと、日東の軍營又似るありと、声と殺ちて、法助を列者の勇
 士も借小、不覚涙を惜し、最殊り、法提軍の拳せり、と、先肩

志もつと。宣ひたるを本中秀吉。傲まぬし。と大い小歎。さぞ小思
 ひり。精氣をたもいらん。と生身。本田小吉。沖谷。と来りせし。忠義を
 さやさん。勅命。赦免。ぬる。よ。沖谷。百出。い。わ。ん。若。し。ふ。い。ろ。ん。ど
 や。と。と。せ。せ。信。者。あ。や。も。本。田。既。日。の。軍。小。戦。死。せ。下。し。あ。ま。る
 や。と。同。せ。も。と。孫。吉。年。い。ろ。も。渠。の。功。を。う。戦。死。の。賞。給。と。小。居。密。小
 好。な。ま。い。情。勇。を。教。へ。と。強。く。戦。死。せ。止。ま。せ。好。方。小。伴。ひ。あ。ま。る。ま。ま
 本。田。刀。沖。平。下。と。伺。せ。傳。中。を。少。ぞ。大。千。代。が。號。喜。限。り。な。く。御。前。小
 出。て。平。伏。し。る。と。信。者。こ。も。と。と。わ。し。雀。躍。する。計。小。歎。び。ま。い。又。子。に
 を。事。あ。て。つ。る。う。を。あ。て。も。此。の。戦。切。の。賞。給。あ。る。こと。伺。せ。り。つ。て。あ。ま
 り。も。小。程。盡。し。汝。を。後。束。缺。籍。せ。し。も。全。く。心。を。取。え。を。家。世。へ。く
 平。が。伴。小。と。忠。義。を。謂。じ。切。名。を。下。小。書。ね。ら。し。め。ん。と。め。新。料。理

申せ。あ。ま。る。と。ぞ。し。情。さ。ま。あり。と。悔。つ。ら。ん。小。然。い。な。く。て。浩。功。を。乃
 働。せ。忠。義。の。心。ぞ。最。報。也。と。ま。ま。い。こ。と。運。命。強。く。後。に。小。再
 命。せ。し。平。が。伴。と。い。ろ。う。を。能。く。多。く。の。款。待。が。首。を。討。つ。る
 號。ま。し。さ。よ。古。今。小。例。と。な。れ。武。士。を。大。張。あ。り。あ。つ。ま。ま。り。浩。功。を。乃
 平。が。伴。小。大。歎。と。思。ひ。惱。し。今。川。義。元。が。四。万。六。千。小。戦。ひ。捷。と。一
 戦。小。滅。した。今。こ。と。信。者。が。存。念。満。足。した。と。い。ふ。も。は。ま。り。り。の
 本。田。父。の。能。言。つ。ら。ふ。忠。義。程。多。山。の。城。を。と。り。み。孫。義。龍。を。滅。さ
 ん。と。勇。を。起。て。ぞ。宣。ひ。ま。あ。る

繪本豊臣勲功記初編卷之拾大終

安政四年丁巳八月出版

編輯者東京 櫻澤堂山

畫工 同 一勇齋國芳

大阪書林

出版人

同

岡田茂兵衛

東區博勞町四丁目

松村九兵衛

東京書林

南區心齋橋筋一丁目

發賣人

山中兵衛

芝區三島町

